

東電がAIパワコン

太陽光・EV・蓄電池最適に

東京電力ホールディングス(HD)は14日、ダイヤゼブラ電機(大阪市淀川区)と共同で、クラウド上の人工知能(AI)を使って太陽光発電(PV)と電気自動車(EV)、定置式蓄電池を最適制御する多機能パワコン本体と蓄電池、EVと接続するV2H(ピークル・ツー・ホーム)ユニットで構成し、P

Vの発電量とEVの充電量を最適に振り分ける。災害時などで停電しても電気を安定し

て使えるほか、平時にはAIが使用状況を監視し電気料金が最も安くなるようにEV側の充電量を制御する。状況はスマートフォンなどで確認できる。



小型化したパワコン本体

チタン酸リチウムイオン電池を採用、長寿命化と約20度Cの低温環境での充電を可能にし、寒冷地での防災

対応も可能にした。コンセント設計を東電HDが、開発をダイヤゼブラ電機が担当した。